

吉野作造講座

近代化遺産をめぐる

2001年
10月13日

近代化遺産とは、幕末から明治・大正・昭和初期にかけて建設された建物や構造物をいいます。一般的に建築系では県庁・駅舎・学校等、土木系では橋・ダム等です。まだ比較的新しい近代化遺産は古くなくと壊されることが多いため、現在これらを保護・活用しようという動きが広まっています。一九九六年十月より文化財登録制度が始まり、宮城県内で続々と近代的な建造物が登録されつつあります。古川市ではまた登録文化財はありませんが、今回のツアーで貴重な近代化遺産を再発見することが出来ました。

①落羽松（市役所）

スギ科の針葉樹で北米東南部・メキシコが原産であるが、日本には明治初期から中期にかけて渡来した。日本名のラクウショウは鳥のような枝が落葉の際、小枝ごとに落ちるさまから名付けられたものである。市役所の落羽松はいつ頃植えられたか記録に残っていないが、樹齢百年と考えられ、県内では最北に位置している。立地条件は悪いものの、樹高二十二m、幹周二・五mに達し、一ヶ所に二本自生していて大変珍しい。

②古川第一小学校

南北校舎

現在の南北の木造校舎は、北校舎は昭和四年、南校舎は昭和



古川第一小学校 南北校舎

六年に落成した。昭和二年に小学校改築案が町会で可決されたものの、町と町民側との校舎建築意見が合わず度々町民大会が



橋平酒造店にて

酒造店の建物は総面積は本来約二、三〇三平方。古川の和衛

③橋平酒造店

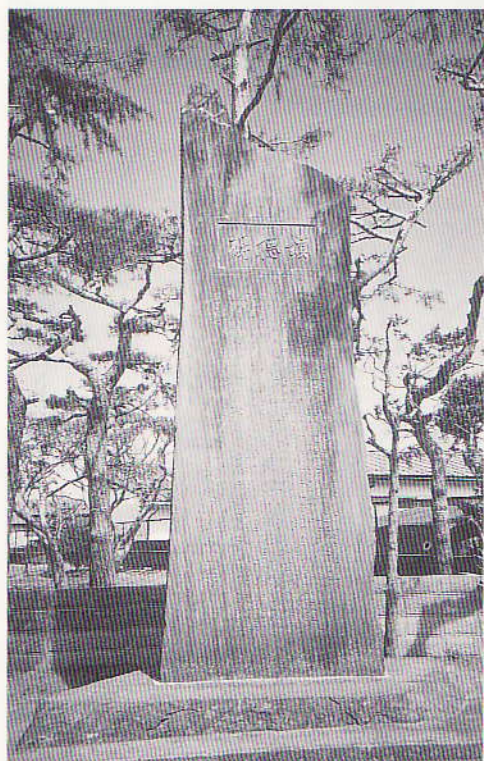
寛政二年創業（一七九〇）。現存する古川の酒造店としては最も古い。酒造店として酒をつくっていたのは昭和六〇年まで。酒銘は「玉の緒」、「をだえの橋」。酒造店の建物は総面積は本来約二、三〇三平方。古川の和衛

行われたという。建築資材は青森産の檜材を用い（一部は杉）、木造建築時代の学校として最良の建築資材を使用した東北で有数のモダン校舎だった。建築には明治以降、積極的に学校建築に取組んでいた気仙大工が関わっている。

④細川松三郎頌徳碑

大正七年二月に古川第一小学校正門前に建てられたもので、高さ四・四m、幅一・五mの粘板岩でできている。碑には、吉野作造が小学校時代（明治二十四年）に教えを受けた細川松三郎の経歴と古川での偉業が称えられている。吉野が生前に古川で造立した唯一の碑で、古川市有形文化財に指定されている。

◀細川松三郎頌徳碑



⑤名生水源跡

古川の上水道の歴史は全国で二番目に古く、明治十六年に起工され、翌十七年に完成したものである。古川は古来良質の飲料水に恵まれず、やむなく市街地中央を流れる緒絶川の水を飲料水に供してきた。しかし明治十五年にコレラが蔓延し六〇余名の死者を出したことが因となり、当時の古川村戸長永澤才吉が自費を投じて調査し、水工会組織で工費をねん出して建設した浄水施設が上水道の始まりである。水源は明治十七年の創設期には夜鳥、明治四十二年に完了した大改修時には名生（名生水源）まで延長した。名生水源は明治三十九年に昔から水が豊富であった名生を、町長佐々木文治が名生新田の篤志家都築又右衛門の案内で発見したもので